

ジェンダー平等ミーティング

令和5年度
若い世代からの
ジェンダー平等
推進事業

10月11日(水)テーマ

「性の多様性について考える」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



「性の多様性について考える」

講師：清水展人さん（一般社団法人日本LGBT協会代表理事）

- ・性のあり方はいろいろ
- ・性的指向、性自認・・・人権課題
性表現、性的特徴・・・付随しているもの
- ・性のあり方の中で見えやすいのは、性表現
人権課題である性的指向、性自認は見えづらい
- ・少数派というだけで生きづらいことがある
- ・ご自身のことについて
- ・「個人が努力」ではなく、いかに環境を整え障壁を取り除いていくか

どんな問題があると考えられるか

◎活動や参加を制限されると考えられるもの

- ・職種
- ・社会的地位、役割
- ・出産
- ・トイレ
- ・服装、制服
- ・更衣や入浴

どんな問題があると考えられるか

◎活動や参加を制限されると考えられるもの

- ・就職活動、働くこと
- ・結婚
- ・学校の中での役割
- ・成人式、行政の式典
- ・親族と顔を合わすこと
- ・イベント

どうすれば当事者の方が生きやすい環境になるだろう？

- だれでもトイレを増やす
- 履歴書の男女欄をなくす
- 学校などの男女別の制服や制度
- 成人式（服装の押しつけをやめる、表現への理解）
- メディアで正しく取り上げたり、講演会を増やしたりする
- 家族や友人などいろいろな人の理解
- 不妊治療や人工授精のサポート
- 同性婚制度

感想

- ・現代社会に関する疑問や改善点を改めて考えるきっかけになった。普段自分たちが生きる世の中で、自分1人の力じゃ何も変わらないと思って生きてきたが、話を聞いて変えられることもあるのではないかと思うことができた。貴重な経験だったと思う。
- ・実際に色々体験された方のお話は講義で習うのとはまた違う新しい考え方や感じ方を覚えた。この経験をしっかり活かして今後に繋げたい。
- ・LGBTQ当事者の方ならではの経験や苦勞してこられたことなど、普段なかなか聞くことのできないリアルなお話で、大変興味深く聞かせていただきました。また、LGBTQとそれを取り巻く社会の現状なども勉強になることばかりでした。

感想

- 性は虹色に輝いているという言葉が印象に残っている。最近SDGsの一つの項目として提唱されていることは知っていたが、恥ずかしながら全くの他人事だった。身の回りにそんな人いないだろうと勝手に思い込んでいた。講義を聞いただけで満足していたらまだ他人事と同じなので、持ち帰って大学の中でできることはないかを真剣に考えたい。
- 今までLGBTについて理解していたと思っていましたが、やはり直接悩んでいる人の声を聞くことで気づかない部分を知ることが出来ました。ジェンダーについて理解をしていることが重要ですが、声を聞くことで新たに気づくこと、もっと社会的に認知されることが今の現状を変えることにつながるのではないかと深く思いました。

感想

- 今日の話聞いて、社会的には男性と女性と固定化がされている。しかし、世の中には、性に関して違和感を感じている人もいる。その為、人に不快に思われるような発言をしないように気をつけていく必要があると思いました。
- まだトランスジェンダー、性同一性障害などといった言葉が世の中に浸透していないころの、自身を理解してくれる人が周りにいないという状態は考えられないほど辛いものだろうと思った。また、だからこそ清水さんのように性的マイノリティに関しての話を詳しく世の中に発信してくださることは、世の中に理解されることにつながると思った。ホルモン治療で肉体が男性に近づくことで悩みが解消されると思ったが、それでさらに悩みが増えることがあることには驚いた。

感想

- ・「決めつける」という行為は、人を傷つけるというのがとても印象的でした。今の社会にある偏見によってされる決めつけをどのようになくせばいいのかを考えるととても貴重な時間となりました。参加してよかったです。
- ・同性カップルがいてもおかしくないと思えるように同性でも結婚できる制度を作ればいいのではないかと思いました。
- ・当事者のお話を聞いてやはり日本はまだまだ法律の整備などが追いついていないなと感じられました。また、自分が思ってもいないような体験を聞いて、固定概念の恐ろしさを感じました。
- ・ジェンダーはひとによって違うので、自分の中の偏見をひとに押し付けて無意識に傷つけてしまわないよう気をつけたい。

感想

- ・人に決められた性別はなく、人それぞれの考え方、生き方があって1つだけの道があるのではなく人生のルールは無数にあり、どのルールを辿って生きていくかはひとそれぞれであると思いました。
- ・性別に対しての理解がまだまだ世間的に追いついていないことを学ぶことができた。今回お話をいただいた清水さんも自分を出すために相当な過去を背負っているし、私の先輩も高校在学時に性自認について私に詳しく話してくれるまで自殺願望を抱えながら辛い毎日を送っていた。私自身は一般的な性自認で性的指向であるがゆえに、今の一般的な何不自由ない生活を送れている。しかし、そうでない人たちはやはりそうでない自分を背負いながら生きていかなければならない。みんなが幸せに生きる社会にするために私ができることは偏見なく理解し寄り添うことだ。そのために、この後もジェンダー問題には積極的に取り組んでいきたい。